

特別支援学校に勤務する教職員として、児童・生徒の障がいに基づいた誠実な支援により、児童・生徒及び保護者関係者からの信頼に応えられるよう、人権を重んじた真摯な態度で教育活動に臨みます。

## 0 はじめに

教職員の資質向上とコンプライアンスの推進が言われ続けているにもかかわらず、昨年度も教職員の不祥事により、児童・生徒・保護者に不安感を抱かせ、県民の信頼を損ねる事案が発生しています。本校においては、「学校信頼向上委員会」において昨年度の取組を検証し、教職員一人ひとりがより自分事として本計画を理解・実践できるよう「信頼される学校であるための行動計画」を改訂し、不祥事の根絶と信頼回復に取組んでいきます。

## 1 本校の現状と課題

本校は知的障がいの特別支援学校で、教職員の年齢構成はベテラン層と若手教職員の比率が高い二極化が進んでいます。また、様々な職種の職員が勤務しています。さらに、児童・生徒・保護者・地域等から本校への期待は高く、年々教職員の業務量は大きくなっています。

こうした特性を踏まえ、規範意識の確立を推進するとともに、教職員がお互いを尊重しながら、心身ともに健康で前向きに業務に取り組める学校運営の在り方を検証・改善するためのPDCAサイクルを繰り返す必要があります。

## 2 具体的な行動計画

### (1) 教職員の規範意識の確立

- 各自の自己目標設定において、コンプライアンスに関する項目について記載し、管理職との面談時に確認します（5月、1月）。
- 7月・12月をコンプライアンス向上月間と位置づけ以下の取組を行います。
  - ① 自らの行動について確認するため、教職員対象のアンケートを実施します。
  - ② ヒヤリハット事例を積極的に共有し、再発防止に向けてフィードバックを行います。
  - ③ 児童・生徒、保護者対象のアンケート等を実施し、不適切な指導について確認します。
- コンプライアンス研修、人権研修とともに、特別支援教育のプロであり続けるための障がいの理解、保護者の思いを理解するための研修を実施します（通年）。
- ホームページ、公開授業、報道提供等を実施し学校の取組を可視化するとともに、外部からの意見を聴取します（通年）。

### (2) 教職員が心身ともに健康で生き生きと業務に取り組める職場づくり

- 前例主義や逡巡することで報告や判断が遅れることがないように、積極的な情報発信・情報共有を進め、些細な問題でも相談・報告し可能な限り速やかに判断・対処できる職場づくりを進めます（通年）。
- 課題や環境の変化に応じた業務の削減・精選を行うとともに、業務軽減と教育効果の充実につながるICT機器の効果的な活用を進めます（通年）。
- 産業医・衛生管理者とも連携しながら、教職員の心身の健康状況の把握し悪化を防ぎます（7月、8月、10月、2月）。

【行動計画 別表】

令和4年度信頼される学校であるための行動計画に係る年間スケジュール

月	内容	備考
4	コンプライアンスに関する自己目標設定	校長
5	第1回学校信頼向上委員会【10】 管理職面談	教頭 校長
6	第2回学校信頼向上委員会 人権研修【17】 コンプライアンス研修【29】 第1回学校関係者評価委員会・人権教育推進協議会	教頭 人権 研修 教頭
7	教職員対象アンケート 児童生徒・保護者対象アンケート ヒヤリハット事例フィードバック 教職員の心身の健康状況の把握	人権 教頭 危機管理 校長、衛生管理者
8	教職員の心身の健康状況の把握	校長、衛生管理者
9	第3回学校信頼向上委員会	教頭
10	教職員の心身の健康状況の把握 人権研修講演会【19】	校長、衛生管理者 人権
11	第4回学校信頼向上委員会 第2回学校関係者評価委員会【12】	教頭 教頭
12	教職員対象アンケート 児童生徒・保護者対象アンケート ヒヤリハット事例フィードバック	人権 教頭 危機管理
1	第5回学校信頼向上委員会 管理職面談 人権研修【16】	教頭 校長 人権
2	教職員の心身の健康状況の把握 第3回学校関係者評価委員会・人権教育推進協議会	校長・衛生管理者 教頭
3	第6回学校信頼向上委員会	教頭
通年	特別支援教育のプロであり続けるための障がい理解、保護者の思いを理解するための研修 ホームページ、公開授業、報道提供等による学校の取組の可視化 積極的な情報発信・情報共有 課題や環境の変化に応じた業務の削減・精選 業務軽減と教育効果の充実につながるICT機器の効果的な活用	